

第28回沖縄小児感染症研究会

謹啓

時下、先生方におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、この度「第28回沖縄小児感染症研究会」を下記の要領にて開催させて頂くことになりました。

開催に辺り、一般演題の募集を開始させていただきます。

ご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上ご出席賜りますよう謹んでご案内申し上げます。

謹白

記

日時:2020年2月27日(木)19:15~21:00

場所:沖縄県小児保健センター

〒901-1105 沖縄県南風原町新川218-11 098-963-8462

19:15~19:30 帝人在宅医療 製品情報提供

「一般演題」 19:30~20:00

座長: 未定

演題①:募集中

演者:

演題②:募集中

演者:

「特別講演」20:00~21:00

座長:琉球大学大学院医学研究科 育成医学講座

教授 中西 浩一 先生

演題:「Vaccine Heritage vs Hesitancy

~ワクチンの遺産 vs ワクチンへの躊躇い」

演者:長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻

展開医療科学講座小児科学 教授 森内 浩幸 先生

※当日は軽食を用意させていただきます。

共催:沖縄県小児感染症研究会/帝人在宅医療株式会社

第 28 回 沖縄小児感染症研究会 特別講演 抄録

演者:長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻

展開医療科学講座小児科学 教授 森内 浩幸 先生

「Vaccine Heritage vs Hesitancy ～ワクチンの遺産 vs ワクチンへの躊躇い」

ワクチンほど多くの病気を防ぎ、命を守った医薬品はない。ワクチンは数多くの病気を「稀な病気」や「歴史」へと変えた。痘瘡の撲滅はその金字塔の一つである。このようにワクチンの恩恵は非常に大きいのに、予防効果は目に見えにくく過小評価される。

その一方で、因果関係がありそうにない稀な有害事象であっても、インターネットを介して目に飛び込んできて、ワクチンのリスクは過大評価されてしまう。WHO はグローバルヘルスの脅威として 10 個の問題を取り上げたが、Vaccine Hesitancy もその一つである。

この講演では、未来に残すべきワクチンという遺産に対して、なぜ人々が迷い躊躇うのかを議論する。また、ワクチンという能動免疫以外の感染予防手段である免疫グロブリンの受動免疫の話、そして Maternal Immunization という(母体に対しては)能動免疫にして(胎児・新生児にとっては)受動免疫である、新たな戦略についても概説する。